

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
国際観光論 International Tourism		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(観光ビジネス実務士必修科目)	全学生 観光ホスピタリティフィールドの学生対象
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
観光学概論 トラベル・コーディネート				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
観光学概論 観光学演習 トラベル・コーディネート				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
斎藤 清	本館2階	火曜日・水曜日・木曜日		授業中に指示します
授業の概要				
この講義では、人口減少社会に突入し、今後活力が失われていくことが懸念される日本の将来に対する救世主として、国も本腰を入れ始めている海外からの訪日外国人（インバウンド）誘致について、その現状と、今後の課題等について学習していく。				
授業の目標				
①訪日外国人旅行者誘致の歴史について、説明することができるようにする。 ②国が力を入れ始めている訪日外国人誘致促進の背景を、説明することができるようにする。 ③インバウンド需要に対応する輸送業者や宿泊業者が直面している現況や課題を、説明することができるようにする。				
授業の方法				
テキストを使用し、外国人旅行者受入の歴史や、国が外国人旅行者受入に積極的に取り組んでいる背景などについて、解説する。また、インバウンドの現状や今後の見通し、インバウンド関連産業の取組み等についても、具体例を盛り込みながら解説する。パワーポイントを使用し、穴埋め形式のデータを見ながら、重要なキーワードを探させたり順番に発表させたりする。				
学習の成果（学習成果）				
①訪日外国人旅行者誘致の歴史について、確認することができる。 ②国の訪日外国人誘致促進策の背景を、確認することができる。 ③インバウンド需要に対応する輸送業者や宿泊業者が直面している現況や課題を、説明することができる。 ④今後地方への波及が期待されるインバウンド需要の重要性を、説明することができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	オリエンテーション（講義の進め方） 訪日外国人旅行者誘致の歴史Ⅰ（スタートは外貨獲得から他）			
第2回目	訪日外国人旅行者誘致の歴史Ⅱ（海外旅行自由化とインバウンド他）			
第3回目	訪日外国人旅行者誘致の歴史Ⅲ（20世紀末までの主な国際観光政策他）			
第4回目	ビジット・ジャパン・キャンペーン			
第5回目	訪日外国人旅行者の現況			
第6回目	国・地域別のマーケット特性			

第7回目	外国人旅行者誘致上の課題と関連法	
第8回目	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題Ⅰ（旅行業）	
第9回目	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題Ⅱ（宿泊業・運輸業）	
第10回目	インバウンド関連産業をめぐる現況と課題Ⅲ（観光施設）	
第11回目	外客誘致諸機関と新たな取組みⅠ（日本政府観光局とその他の関連団体）	
第12回目	外客誘致諸機関と新たな取組みⅡ（地方自治体の取り組みと広域連携）	
第13回目	インバウンド実務Ⅰ（予約依頼の方法や仕事の流れ）	
第14回目	インバウンド実務Ⅱ（具体的な依頼と回答事例）	
第15回目	全体のまとめ	
事前・事後学習	事前：授業Scheduleに合わせて、教科書の当該部分を一読してから授業に臨む事 事後：授業での不明点は、次回授業までに調べ理解しておく事	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	30%	授業に集中し、ノートをとる。不明なことがあれば積極的に質問する。自分の意見を述べるなどが評価の対象となる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	インバウンドの歴史、国の政策に関する理解、インバウンド関連産業をめぐる現況と課題等についてしっかりと理解が出来ているかどうか、が評価のポイントになる。S評価の基準：S=90-100
発表内容（態度含む）		
その他		
教科書と参考図書		
インバウンド概論（JTB総合研究所）		
履修上の留意点・ルール		
3分の1以上欠席した場合は、理由の如何を問わず単位認定しない。 遅刻厳禁。私語は慎むこと。授業途中で無断退出厳禁。携帯電話使用禁止。飲食厳禁。		